

## 「会議過多症」に 気を付けろ

ある組織では、

会議が仕事から逃げ出す手段に

なってしまう。

▼「経営の通格者」

「会議」に関するドラッカーの言葉には、厳しいものがあります。たとえば、「人は、仕事をするか、会議に出るかである」「会議は懇談ではなく仕事の場としなければならぬ」といった言葉や、「ある組織では、会議が仕事から逃げ出す手段になってしまふ」はかなり辛辣な言葉と言えます。こうした言葉に「その通り」と頷く人も多いはずですが、現実には、やたら会議を開きたがる人や、会議に出席することこそ重要な仕事だと勘違いしている人もいて、何も決まらず、何も生み出せない会議がたくさんあります。

多すぎる会議は、組織や個人から時間

を奪い、仕事をかえって遅くしていきま  
す。もし労働時間の25%以上が会議に費  
やされているとしたら、会議過多症だと  
いうのがドラッカーの指摘です。そんな  
自覚があればすぐに変えた方がいいで  
しょう。たとえば、座るのではなく立つ  
て会議をするとか、課題があれば今集ま  
れる人だけで話し合えばいいし、その一  
方でリーダーは参加者全員が必ず一回は  
発言できるように心がけ、会議が終わっ  
たら内容をまとめ、「何をいつまでに誰  
がやるか」を決めてメモを渡すのも一つ  
の方法です。会議をするのは「原則」で  
はなく「例外」である方が望ましいのです。